

オランダでの地方分権改革と税財源の研究を終えて

和光大学経済経営学部教授

星野菜穂子

2016年4月～2017年3月の期間、オランダ・ロッテルダムにあるエラスムス大学(Erasmus University Rotterdam)の客員研究員として、オランダの地方分権改革と税財源の研究を行った。研究室はErasmus Study Centre for Taxes of Sub Central Governments(ESBL)に所属した。同センターは、中央集権的な税財政構造をもつオランダにおいて地方税法を専門とする貴重な研究拠点となっている。同センターのJ. G. Monsma教授、Dr. A. Schep氏、Dr. A. Monsma氏、またS. Hemels教授には素晴らしい研究環境を与えていただいた。



(研究室、撮影筆者)

研究の背景と研究手法

オランダは単一国家であり、2015年で12州(province)、393自治体(gemeente)、23水利団体(waterschap)がある。地方歳出のGDP比は13.6%(2014年、OECD)、ほとんどは自治体によるものである。地方歳入をみると、地方への税源配分がきわめて低く、自治体の税源は不動産税を中心としている。他のOECD諸国と比較しても地方への税源配分が低く中央政府からの補助金に依存する構造となっていることを特色としている。

このような税財政構造をもつオランダにおいて、2015年に3DDecentralizationとも呼ばれる地方分権改革が行われた。社会福祉3分野(社会支援法(Wmo)、青少年法(Jeugdwet)、参加法(Participatiewet))で行われた分権改革であり、自治体への事務移譲が行われている。先進国の多くにおいて、伝統的な財政理論とは異なり地方政府が所得再分配政策として社会福祉分野の公共サービス提供に関わっている現状がある。日本とオランダには相違

もあるが、2015年地方分権改革によって自治体に対し税財源をどのように保障し社会福祉をどうファイナンスしていくかは日本に共通する課題でもある。自治体の事務拡大にともない税源拡大の要請も強まっている。一方、日本におけるオランダ研究は税制に関するもの以外でも幅広く行われているが、政府間財政関係に言及したものは乏しい現状にある。日本で関心の高い医療介護制度改革はいまや分権改革や地方政府の税財源構造と密接に結びついている。こうした研究動向からも今回のオランダ研究は意義あるものと位置付けている。

研究手法については、データの分析にもとづく手法とともに関係各所へのヒアリングによって現状ならびに課題を把握した。ヒアリング先は以下のとおりである。

ヒアリング

○University of Groningen、(COELO) The Centre for research on local government economics

上記 ESBL が法律の観点から地方税を専門とする研究センターであるのに対し、オランダにおいて経済の観点から政府間財政関係や地方自治を専門的に研究する拠点がフローニンゲン大学 (University of Groningen) の COELO である。同所長の M. A. Allers 教授はオランダでの同分野研究の第一人者である。Allers 教授には再三にわたる面談の機会をいただいで詳細にご教示いただいたほか、データのご提供、関連文献等のご紹介、メールでの質疑応答等を通じ、今回の研究に多大なご協力をいただいた。



(フローニンゲン大学 COELO の入る建物、撮影筆者)

○Rfv (Raad voor de financiële verhoudingen)

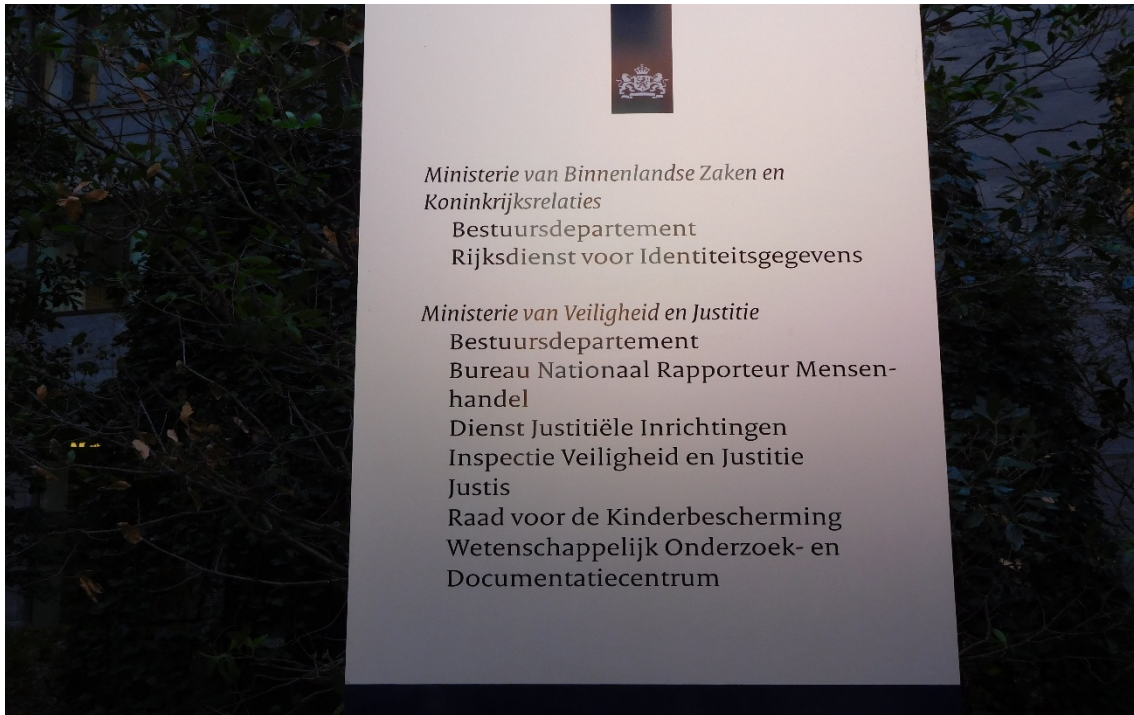
Rfv はオランダの政府間財政関係について、政府に対しさまざまな助言を行う独立の第三者諮問機関である。Rfv の政府間財政関係の専門家である G. V. Nijendaal 氏には税財政、政府間財政関係、地方分権改革の現状等、長時間にわたってさまざまな領域にわたるお話をうかがえた。



(Rfv、撮影筆者)

○BZK (Ministerie van Binnenlandse Zaken en Koninkrijksrelaties)

オランダの内務省、日本の総務省にあたる省庁へのヒアリングも行った。ご対応いただいたのは G. de. Joode 氏、O. IJsselsteijn 氏、S. Vernooij 氏の 3 氏である。現在、オランダでは政府間財政関係の見直しが検討されており、そのプロジェクトの担当者および一般補助金 (gemeentefonds) の運用の担当者のご対応であった。一般補助金については、実務運用の面からの現状直面する課題等のお話をうかがった。また政府間財政関係については、地方税の拡充が検討されており(これについては 2016 年 6 月に公表されている)、それにとりまう一般補助金の見直しが今後の課題ということであった。貴重な資料のご提供もいただいた。日本における税財政や政府間財政関係の課題についても質問を受けた。



(BZK, 撮影筆者)

○VNG (Vereniging van Nederlandse Gemeenten)

VNGはオランダにおける自治体のロビー団体に位置づけられる組織である。同団体の地方財政が専門である T. Jacob 氏にご対応いただいた。地方団体の立場から現状の政府間財政関係、見直しにともなう影響、地方分権改革の現状等のお話をうかがった。VNGのある建物は教会が改築されたものらしく外観はその趣きが残っている。



(VNG, 撮影筆者)

○自治体ドルドレヒト (Dordrecht)

ドルドレヒト (Dordrecht) において地方自治体の現場の担当者からも話をうかがう機会を得た。ドルドレヒトはロッテルダムから電車で約 15 分程度の距離にあり、人口 12 万人弱の比較的人口規模の大きい都市に分類される。ご対応いただいたのは、社会福祉部門の Y. S. M. Bieshaar 氏、M. F. Rothuizen 氏であった。自治体の立場からの地方分権改革の現状、政府間財政関係等々について有益なお話をうかがった。自治体間連携は事業ごとに進んでいるということであった。



(ドルドレヒトの社会福祉部門の入る建物、撮影筆者)

○王立図書館 (Koninklijke Bibliotheek)

デンハーグ (Den Haag) の同館所収の資料収集も行った。



(王立図書館、撮影筆者)

オランダでの研究発表

オランダ滞在を終える前に、エラスムス大学 (Erasmus University Rotterdam) の ESBL 主催によるオランダ政府間財政関係についてのセミナーで研究報告を行った (下はプログラム)。自治体関係者のほか、ヒアリングでご協力頂いた Rfv の Nijendaal 氏、VNG の Jacob 氏や、BZK をはじめ CPB (Het Centraal Planbureau) からの参加者もあった。



ESBL STUDIEMIDDAG 'DE TOEKOMST VAN DE GEMEENTEFINANCIËN'

De activiteiten van het Erasmus Studiecentrum voor Belastingen van Lokale overheden (ESBL) worden mogelijk gemaakt door sponsoring vanuit de Stichting J.H. Christiaanse. Vanwege het 25-jarig bestaan van deze stichting organiseert het ESBL op 14 februari 2017 een studiemiddag rond het thema: De toekomst van de gemeentefinanciën. Hierbij komt zowel de toekomst van het gemeentelijk belastinggebied als die van de financiële verhouding tussen rijk en gemeenten aan bod.

Het programma luidt als volgt:

- 12:30 uur: ONTVANGST DEELNEMERS
- 13:00 uur: em. prof. mr. drs. Henk van Arendonk (dagvoorzitter)
Opening
- 13:15 uur: prof. dr. Jan Monsma (ESBL, Erasmus School of Law)
De toekomst van het gemeentelijk belastinggebied
- 13:45 uur: mw. prof. dr. Nahoko Hoshino (Wako University Tokyo, Japan) met introductie van dr. Arjen Schep (ESBL)
Financiële verhouding & 3D-decentralisaties: eerste resultaten van onderzoek en vergelijking met Japan
- 14:15 uur: PAUZE
- 14:45 uur: prof. dr. Maarten Allers (COELO, Rijksuniversiteit Groningen)
De toekomst van de financiële verhouding
- 15:15 uur: em. prof. dr. Leo Stevens
Geloofwaardigheidstekort en gemeentelijke heffingen
- 15:45 uur: *Forumdiscussie*
- 16:15 uur: Arri Hartog MBA CM CAM CQM CIRM CBPM (voorzitter St. J.H. Christiaanse)
Nawoord
- 16:30 uur: Borrel

Inschrijven

via: <http://studiemiddag-toekomst-van-de-gemeentefinancien.deelnemer.com/>

of via: www.esbl.nl

Kosten: € 95,- (excl. BTW).

Locatie: Erasmus Expo- en Congrescentrum (Van der Goot Building), Forumzaal,
Erasmus Universiteit Rotterdam (Woudestein)

Plattegrond en route: <https://www.eur.nl/contact/plattegronden/>

租税資料館からの海外助成により、今回オランダでの在外研究にあたりヒアリングや資料収集・分析など幅広い研究活動が可能となった。改めて感謝申し上げたい。